



マッチはどうして火がつくの

マッチをつくっている物

マッチは軸の木と、頭に薬をつけた物からできています。頭の薬には、黒、赤、緑などいろいろな色の物があります。もう一つ、火をつけるときにこする、マッチ箱のわきについている、ざらざらした茶色の紙があります。この三つがそろっているマッチのことを、安全マッチといいます。

頭の薬は、火がつくための薬（酸化剤、可燃剤）、薬がばらばらにならないように固める薬（調整剤、膠着剤）、色をつける薬（着色剤）、湿らないための薬（耐湿剤）などからできています。

頭の薬と茶色の紙を強くこすりあわせる

頭の薬には、マッチに火がつきやすくするために、硫黄や松やなどの燃えやすい物を使っています。マッチ箱のわきについている茶色の紙は、物に火をつける役目をするりんが使われています。

頭の部分と、茶色の紙を強くこすりあわせると、熱が生まれ、この熱が火をつけます。昔のマッチには、頭の薬に黄りんをまぜ、どこでこすっても火がつく物がありました。そのほうが便利なようですが、たいへん危険なので、今では、世界のほとんどの国で、安全マッチが使われています。（監修・小川 格）

